緑友だより

NO. 31

全国印刷緑友会機関誌

東京都杉並区和田 1-29-11　(社) 日本印刷技術協会

74年セミナーで「沈没なき日本」を聴く

全国印刷緑友会セミナーが去る2月16日東京大手町の経団連ビルに全国から会員約120名を集めて開かれた。講師はベストセラー「日本沈没」の小松左京氏，経済企画庁経済研究所の内野達郎所長，そして日本印刷技術協会専務理事の塚田益男氏。これからの日本，ことしの経済，これからの印刷業と，たっぷり7時間にわたる講演を旺盛な知的食欲で消化した。

これからの日本

作家　小松左京氏

日本の近代はまだわずか100年にしかならない。人類史上でも，産業革命に始まる機械文明は200年の歴史しかもっていない。まして石油をはじめとするエネルギーの大量消費を通じて世界を変えたという歴史が始まったのはわずか以前のことである。これが実は大きな問題なのだ。

産業革命以後，人口問題が世界的に研究され始めた。この地球に原生人類が痕跡を遺しているのは約5万年前である。氷河期の最中にあたる。

最近も地球の寒冷化が始まり，氷河期に入るのではないかと騒がれているが，いまの寒冷化は大したことではない。この10年間，寒冷化は進むけれども氷河期ではない。

5万年前に始まる氷河期に海水面が低下し，陸地面積が広がり人類が出てきた。人口約50万人と推定されている。ブルム氷期は1万年前に終ったが，それに先立つ1万年の間に人類はほぼ全世界に展開し，アメリカ新大陸にもモンゴロイドがわたりインディアンとなる。1万年前の推定人口は約200万人といわれている。

8千年前に農業革命が起った。東南アジアでバナナを栽培したのが最初の農業だったという。次にメソポタミアでイネや小麦など禾本科の栽培が始まった。5—6千年前の世界人口は約1千万人と推定されている。

農業の発達につれて集積と生産のサイクルが世界的に起り，メソポタミアにみられるような都市国家が生れる。ここからようやく人類は文明期に入る。

メソポタミア，インダス河流域，ナイル河流

域，そしてやや遅れて4千年ほど前に黄河流域と，世界にはいくつかの〝文明センター〟が形成されていった。

〝文明センター〟とはいっても大部分はいまのニューギニア高地人やアフリカのカラハリブッシュのような文明の段階だった。

文明は伝播しなくても，ある時期に同時発生する。たとえば新大陸では，イネや小麦は栽培しなかったが，同じころトウモロコシの栽培を始め，インディアンによって〝トウモロコシ大文明〟ともいうべきマヤやインカの文明を生んでいる。

こうして生れた文明センターがセンター同士の交流を始め，それによって中間地帯を文明の中に巻き込んでいく。

ラッキーな国、日本
〝神風〟はダブル役満

▶ 壊滅知らぬ日本 ◀

その時代の日本を考えてみると日本の農業時代の始まりは，これら文明センターの発生よりもかなり遅い。まだ文明以前の技術の時代だがそれでも縄文式土器は9千年前のものが発見されており，土器として縄文式は世界で最も古い。しかし文明の中に組み入れられるのは約1,900年前のことになる。

日本のそばには中国といった大文明センターがある。中国の文明がはっきり形をとりだすのは3千年前。日本はそのインパクトを受けながら変化していく。

日本へはブルム氷期で地続きになった大陸から人類が渡来，焼畑農業，狩猟，採集の段階，2,500年前ごろに稲作を始め，千数百年前にようやく国家らしいものを形づくった。

従って，日本は世界の人類文明との接触が比較的新しいということ，これが日本の世界史的位置づけの一つだろう。

この国の社会の性格には大きな特色がある。それは世界の大陸の民族が経験した滅亡。消滅というものを全く経験していないことである。最も近い朝鮮半島との距離，海上200キロ，距てるのは荒海で知られる玄海灘で，日本に軍隊を上陸させることは非常にむずかしいという地理的条件が幸いした。

ユーラシア大陸には文明センターとは違ったもう一つの原理をもつ文明があった。遊牧民族はきわめて戦闘的でよく組織され，歴史的に何回かの大爆発を起している。大爆発を起すと農耕社会に攻め入り破壊し尽す。12世紀から13世紀へかけてのモンゴルの大爆発，これがすごかった。

文明を運んだシルクロードは文字通り破壊された。北アフリカから中央アジアへの大文明国であったサラセン，イスラムも破壊し尽された。やきつくす，殺しつくす，奪いつくすという日本皇軍の三光作戦のオリジナルともいえる。イスラムの文明センターであったバクダッドでの攻防のすえ，皇帝にあたるカリフの首を斬って1週間で80万人を殺したという。

北方のロシアものみ込まれ中国も当時の金，南宋が滅された。陳舜臣（作家）にある時，「北京は中国の首都として少し北にかたより過ぎていないか」ときいたら陳さんは「いや，中国人は寒いところで北を向いていないとダメになっちゃうんだ」（笑）といっていた。確かに当時の中国はかなりダメになっていたらしい。男たちは華美になれ，ほとんど抵抗もできなかった。

中国経略にあたったのはジンギスカンの子ジューチ，弟オゴタイチャガタイだが，彼らにとって〝一人前の人間〟とは，草原に馬を駆り，羊を飼いふやすことのできる人間のことであって，農耕民など人間とは思っていなかった。そこで中国大陸4千万人を殺してカラッポにし，ここで羊を飼おうと考えた。事実西ヨーロッパでは千数百万人を殺している。大量殺りくは家畜でなれている。

その時，オゴタイの幕僚である耶律楚材（ヤ

リツソザイ）がこれを諫め，殺すよりも生かしておいて貢物を取ろうと提案，その企画のもとに華北の乾燥農業地帯を支配し，クビライに至って「元」をつくる。

このクビライの元が二回にわたって日本に攻めてくる。ところが二回とも台風にぶつかって壊滅してしまう。これはちょっと運がよすぎる感じがしないでもない。そのために元軍内部の内紛説を唱える人もいるぐらいだ。いずれにせよこの〝国難〟を非常にラッキーな形で免れたのは事実で，麻雀でいえば九連宝灯（ちゅうれんぼおとん）の天和（てんほう）でアガったようなものだ（笑）。

列強侵略も素通り
〝国際性〟は好機失う

▶ 日本列島の位置 ◀

元寇当時，日本は東アジアの情勢にうとかった。にもかかわらず征服を免れた。この時期，モンゴルの侵略から免がれたのはタイと日本だけ。ふしぎなことに近くは欧州列強のアジア植民地化攻勢のときに，独立を保ったのもタイと日本の二国だけである。

タイが滅亡を免れたのはそのみごとな外交と情報活動による。それにくらべると日本の方は，鎌倉の外交はまるでムチャクチャで，夜郎自大もいいところ。というのも，南宋がツブされる少し前から禅僧が鎌倉へ入ってくるようになり，幕府のオルガナイザー役としてかなり大きな顔をしていた。

元が中原を抑えたころはすでにかっての蕃族ではなく，政治，経済は中国人がシステム化し，クビライは宗主として中国王朝の後継者になっていたから，すでに外交というものがあった。侵攻から朝貢外交に変っていた。当時からすれば大国に朝貢することは屈辱的なことではない。エラいのは中国だとまず認めてやる。認めたしるしに朝貢する。それも金目のものでなくていい。日本ならさしずめフカのヒレ，ナマコ，アワビぐらいをもっていけばいい（笑）。すると朝貢を受けた側はその数百倍の価値があるものを返さなければならない。日本では平清盛がこれをやった。朝貢貿易というのは儲かる。ハマグリやってコンピューターをもらうようなものだ。

ところが日本は当時混乱していてそれがわからない。菅原道真による遣唐使の中止以来，大陸の情報にうとくなっている。しかも鎌倉は若い軍事政権である。そこで元から国書をもって朝貢を求める使者が来たときも，鎌倉は「無礼である」といって返事をしなかった。おそらくこれは南宋くずれの禅僧の入れ知恵だったのだろう。

二度目に来た使者は首を斬ってしまった。かりに日本でも，三木副総理がアラブでこんな扱いをうければ怒るのはあたりまえで，元が軍隊を派遣するのも当然のことだった。全く外交上は常識外れのメチャクチャなやり方。

軍隊に来られてみると日本人は神だのみで，武士は八幡さま，貴族は伊勢へ願をかけた。その結果〝神風〟が吹いたので，それ以後伊勢の株が上がり，八幡さもは地位が落ちた。

このように，実にラッキーにこの難儀を免れたのだが，どうみてもこれは人事を尽した上で恵まれたラッキーではない。あえていえば，国をつくった場所が世界史上に非常にラッキーな位置にあったということができる。

▶ 鎖国の功罪 ◀

日本は世界史的にみて，きわめてラッキーな孤立を保てる位置にあった。しかしそれは完全な孤立ではなく，朝鮮半島というフィルターを通して外界との接触をたもった。このフィルターは，暴力は通さないが情報は通す。暴力が日本への上陸作戦を成功させようとすると非常な犠牲を覚悟しなければならなかった。

かりにもう200km東へ日本列島が寄っていれば，おそらく日本の歴史は変っただろう。
情報は入ってこない。それに疫病がコワい。新

大陸が旧大陸文明と初めて接触したとき急激な人口低下をきたしたが，その原因は天然痘だった。カトリックのミッションがポリネシアへ入った時も人口低下が起った。この時はハシカだったという。

このように孤立は免疫がないからこわい。文明との接触によって急性症状をひき起す。

ところが日本は少しづつ疫病が入ってくる。ペストは崇神天皇のころに入っている。以後疫病流行の記録はあるが，そのために人口が半減したというような記録はない。ペストもハンセン氏病もジフィリス（梅毒）も，日本人の免疫構造として保存されている。

幕末には男65%がジフィリスだったという説があるが，長い鎖国のあとの開国のときは，ちゃんと蘭学をモノにして防疫の水際作戦を展開して切りぬけている。

鎖国を評して当時の外国人が，「あんなに外のことを気にしながら鎖国しているのは珍しい」といったそうだが，日本の文化の体質は本当はあまり外国とつき合いたくないが，インフォメーション（情報）だけは気にするという，いわばディフェンシブな情報翻訳であると思う。

鎖国の功罪についてはいろいろ説の分れるところだが，ある意味では，ユーラシア文化圏の変動期――中国が明から清に変り，インドはムガールにやられ，イスラムはトルコにやられ，さらに西方からヨーロッパ文明がやってくる。16世紀近代の洗礼を受けて変るべき国民性を，250年の間，自ら閉じることによって疎外してしまったともいえる。江戸期に国を開いていたとしたら，国民性としての国際性を身につけるべき非常にいい時期だったろう。

▶国民の等質性◀

もし欧州やユーラシア大陸で鎖国を貫ぬこうとすれば，おそらく実に巨大な戦力を必要とするに違いない。ところが日本はその地理的条件から，鎖国を一方的に宣言するだけで成り立ってしまう。

このクセが平和憲法にも残っていて，自分のところだけが一方的に〝戦争はやめた〟と宣言するだけで戦争は起らないと思っている。しかしこれまたラッキーなことに戦後28年これが通ってきている。これで存立が許されたのも，日本という国の位置が大きな役割を果していると思う。

幕末の変革期でも，あれがジャワやスマトラの位置ならたちまち外国の植民地にされてしまっただろう。19世紀の植民地化の時期に，独立を全うしたのは先にもいった通りタイと日本だけだった。

タイは日本と同じようにホモジアスな国で，民族は同質，タイ人だけの国，従って支配層は寝首をかかれる心配がないから，内政よりも外交に存分腕がふるえた。王族のファンクションは外交をやることに尽きた。英明君主といわれたラーマ四世，チュラルコン皇太子が外交で敏腕をふるい，タイの独立を列強からまもった。

一方，日本の19世紀は幕末の内ゲバだった。ところがラッキーなことに欧州列強のアジア兵站線の伸びないところに日本はいた。
しかも，列強が魅力を感じていたのは中国であった。中国にくらべると日本はいかにも魅力がない。

当時，マーケットとしてたとえばインドを見ていたのは，ランカシャーの織物を売りつけようとしていたイギリスぐらいのもので，あとは資源に魅力を感じて植民地を求めていたわけだから，その意味では日本は眼こぼしの感じだった。

またアメリカはペルーが来航したが，その矢先に南北戦争が起った。ペルーは南軍だから，日本へ来られなくなってしまった。

こうして，250年の鎖国の間に日本人のホモジニティ（同質性）がすすみ，ラッキーな歴史と地理的条件のおかげで独立を侵されずに開国することができた。

きわめて等質性の強い一民族による一国家がここに近代を迎えた。この〝一民族，一国家〟という形こそ理想的な近代国家だと考えられたが，実はそれは大きな錯覚である。

国家＝ネーションの語源であるネーチュアは，ラテン語の〝生れる〟ということばからきていて，民族主義，ネーションとは古い部族主

義へのアンチテーゼであり，それを止揚したものであった。

国家とは同一地域内の異民族の地域連帯でありオートノミイ（自治政策）であった。だから世界中どこの国でも，パトリオティズムつまり〝父なる国〟国家と，マザーカントリー〝母なる国〟とは別のものだ。

ところが日本人はそう思わない。アメリカで日本人同士が結婚して生れた子どもはやはり日本人だと思っている。逆に日本に永住しているアメリカ人夫婦の子供は日本人ではなく，〝外人〟だと思っている。

新しい独自性を
システムつくり変えの要

▶ 閉鎖的な体質 ◀

たとえばスイスにはご承知のように国語が四つある。フランス語，ドイツ語，イタリア語，ロマンシュ語。公用語は仏，独，伊三カ国語で，ロマンシュというのはグラウビュンデン州だけ，人口の1％が使っている。

スペインのフランコ首相を暗殺したスペインのバスク人は，スペイン政府のバスク文化をなくすという政策に抵抗している。カナダもフランス語，英語が共存している。イギリスも多部族連合国家で，たとえばウェールス系はアングロサクソン系に今なお激しい敵意をもっている。

こういう国々を見て日本へ帰ってくると，気持がわるくなるぐらいだ。スチュワーデスが日本人，税関が日本人なのはいいとして，タクシーの運転手が日本人，掃除のおばさんが日本人，どちらを向いてもみんな日本人（笑）。

この等質性がうまく生かされていままできたが，それだけにこれからは，異質文化が混然として生きている国際社会の中にまじり合っていく国民体質を，日本人はもっていないということを十分計算に入れておく必要があると思う。

▶ 無主義，無節操 ◀

太平洋戦争の時，あわや本土決戦かという直前にも神風が吹いたという説がある（笑）。

佐世保沖に集結した米艦隊が上陸作戦を始めようとした寸前に台風が来た。これで二週間遅れた。その間に日本は降伏し武装解除，日本人はあっという間に新環境に適応して米軍が上陸してみると「イラハイ，イラハイ」「ギブミーチューインガム」（笑）これで本土決戦は回避された。

無主義，無節操，出たとこ勝負――これでいままでうまくやってきたんだから，これでいいんだという説も確かに一理あるが，これが通用してきたのは，日本が世界史的にきわめてラッキーな位置にあったということを計算に入れておく必要がある。

国家意識ができていない段階で日本という国が雲散霧消してしまう機会は歴史上何度かあった。実にラッキーな歴史だった。

しかし私はまだ日本はツイていると思う。ツイてはいるが，麻雀を覚え始めて3カ月ぐらいは大三元とか四暗刻がやたらにできる，そういうビギナーズ・ラックの段階は過ぎた。世界はようやく日本の手口を知り始めている。

戦後，ラッキーだったのはアメリカの単独占領だったこと。しかも憲法をタテに防衛費はGNPの1％，防衛はアメリカにまかせてチャッカリそのカサの下に入り込む。あとのエネルギーをすべて経済に注ぎ込んだ。これにしても，別段見通しがあってやったわけじゃない。成行きにまかせているうちにそれがアタったわけだ。

巨大な軍事力のバランスで成立っている現在，軍備のこれ以上の拡大がいかに巨大国家といえども負担にならないはずがない。

たとえばソ連。コスイギン首相はレニングラード繊維大学の出身で，初めてソ連に出たテクノクラード（技術官僚）出身の指導者である。ロシアはかってモンゴルを阻止しナポレオンを阻止し，そしてヒットラーを阻止し，戦後はアメリカとの冷戦構造の下でというように一貫して軍備優先の路線をとってきたが，もうここま

でくるとやはり国民の生活向上を本気で考えないわけにはいかない。何とか軍備増強から手を抜きたがっている。

一方，アメリカも〝世界の警察〟としてあちこちの戦争に介入してきた。しかしニクソン＝キッシンジャー路線になると，これまでの〝一枚岩〟をバラして，つっかえ棒をたくさんつくりバランスをとるという方向をたどっている。

こうなってくると，日本がどんどんトランジスターをかついで世界の市場をひどく荒しまわってきたが，これが世界の目につき始めた。いつのまにか世界有数の資源加工輸出国になり，GNP二位とか三位とかに成り上っている。

日本が自給自足できる人口は江戸末期の3,000万人程度だが，海外領土をもつに等しい国際経済活動で1億の人間が食っている。その海外活動は，〝ギブ・アンド・テーク〟になっていない。なっていればあれほど外貨はたまらない。一次産品を安く買ってその余禄をたっぷり吸い上げてきた。

ところがOAPECのように資源外交という新しい動きが始まった。資源外交がこんどのアラブのようにうまくいったのは珍しく，たとえばアジェンデのチリーなどは，鉱山を国有化して輸出価格を引上げようとしたら，逆にマーケットを閉鎖されて国内がダウンしてしまった。これがこれまでふつうのパターンだった。

このように一方で強大国が軍備戦争から経済のレベルへ移ってくる。他方で資源提供国が資源外交を打ってくる。日本はこの板ばさみになる。しかも日本の経済活動は〝第二の皇軍〟とか〝経済侵略〟といった酷評を国際的にうけつつある。

こうした国際関係の中で，日本はヘッジング（障壁防衛）せざるをえない。少くともそのためには〝経済侵略〟といったシンボルを使って国際的な非難のコーラスが起った時にすかさず手を打っていく，シンボルレベルでの外交戦に熟練していくことが必要だと思う。

▶国民的教養を◀

これからの国際社会に日本が生きのこっていくには，先の変化を読みとれるだけの国民的教養，国民体験が蓄積される必要がある。これはエリートだけではダメで，エリートの中のすばらしいタレントをサポートするための国民的教養が必要になる。

日露戦争の講和の全権大使だった小村寿太郎は，講和をまとめなければ日本にはもう戦う力が残っていないことを熟知していたからルーズベルトをうまく抱え込んで日本を救った。ところがこの小村寿太郎の外交を理解する国民的教養がなかったために，彼は朝野あげて〝軟弱外交〟と激しく批判される。

こういう国民的教養のないところにはテロリズムが発生する。幕末以後テロリズムがいかに有能な人を殺してきたか。

しかし戦後のテロリズムの犠牲者は浅沼稲次郎氏一人である。これをみると，かなり転換ができつつあることがわかる。

また産業構造もアメリカ型から西欧型に変えていかざるをえないのではないか。アメリカ型産業国家を金科玉条とした時期は過ぎた。本家のアメリカ自身がそれに気づいている。

農業を例にとってみると，歴史上ある時期に非常に農業が伸びる。つまりパイの大きさが十倍にもなる。それにつれて需要もふえる。しかしある制約によってパイが半分になってしまった時に，粗放農業から高度な園芸型農業への転換が起っている。

工業にも同じことがいえるのではないか。これまでの粗放産業——大量消費・大量流通で石油をガブのみする産業構造が，その本家のアメリカでもこれ以上続かないという時期である。

日本人にとって世界とは，世界という鏡に自分を映し，自分を見直して道を生み出していくというよりも，何かいいことはないものかと探して歩くショーウインドーだった。初めはナポレオンで景気のよかったフランス，これがダメになるとドイツだ，次にイギリスだ，そして戦後はアメリカだというように世界のファッションを探しつづけてきた。

しかし，ファッション，お手本としての世界はすでに消滅しつつある。世界は，非常に多面的なものの中から自分の独自性を見つけ出すための鏡として使うべきだろう。独自性というと

すぐお茶とお花の日本主義，もう少しオカしくなると皇国史観ということは傾きがちだがこれは困る。

精神の鎖国を解き，世界の中で国際性と独自性を獲得するためには，今のシステムをほとんど全部変える必要がある。

たとえば6・3制教育。アメリカ直輸入のシステムの寸法にからだを合せて使ってきた。しかしこれからの日本の将来をつくっていくには教育が合わなくなってきている。だからといって私は国粋主義教育を主張しているのではなく，もっと国際的センスをもった人間を育てるべきだということだ。これからは国民性として一人々々が外交官であるべき時代になろうとするときに教育はほとんど役に立たない。

たとえば日本の英語教育は何年かけても英語が話せない。話せるようになるには別に塾に通わなければならない。大学を出ても英語が話せない。大学の英文科の先生だって満足に話せない人がいる。何をしているかというとシェークスピアか何か翻訳している。シェークスピアを読むために英語を習うのではないはずなのに—。

日本でもお茶漬けとそば以外は音を立てずに食べなければ無作法になる。それなのに一流大学を出た一流会社のビジネスマンが，外国でメシを食べながら平気で大きな音を立てる。全くビックリする話だが，考えてみればそういうマナーを誰も体系だって教えてくれない。

時間の関係でシステムの話は十分展開できなかったが，いずれにせよ，日本という国の歴史的反省を踏まえ，自分の立場というものをはっきりさせ，自覚することが必要な時ではないかと思う。そこで初めて本当の意味の〝先どり〟ができるのだと思う。

全国印刷緑友会第17回定期総会ご案内

と　き　昭和49年5月25日（土）

ところ　東京銀座ニッサン・ギャラリー
東京都中央区銀座4丁目

会　費　6,000円

申込み　グループ毎に下記に電話にて連絡のこと。
全国印刷緑友会事務局
東京都杉並区和田1—29—11
日本印刷技術協会内
TEL (03) 384-3111

当日の予定

13：00　受付開始
司会……常任幹事　飯田　範夫

13：30　開会宣言……　〃　水谷　基也
綱領……　〃　渡辺　守将
幹事長の挨拶
……幹事長　若山　晃一
参加グループの紹介

14：30　総会議事審議
議長選出
1. 昭和48年度事業報告
……幹事長　若山　晃一
2. 昭和48年度決算報告
……会計幹事　岩田　宗雄
会計監査報告
……会計監事　新村　敏明
3. 昭和49年度事業計画
……幹事長　若山　晃一
4. 昭和49年度予算
……会計幹事　岩田　宗雄

15：00　報告その他
1. 次期総会開催地の決定発表
……幹事長　若山　晃一
次期総会開催地代表挨拶
2. 次期大会のご案内
……下関青年印刷人緑友会
3. 新グループの報告
4. 退会グループの報告
5. その他

15：15　閉会のことば
……常任幹事　作道　亮雄
記念講演
《変革期における
印刷企業体質の改善》
講　師　東京都商工指導所主事
……竹本　二郎

17：45　記念写真撮影

18：00　懇親パーティー

20：00　散会

◎ 年1回のわれわれの大切な総会です。各グループ長はかならず出席して下さい。代表者が都合の悪いときは代理の方でも結構です。

◎ 全国的な交流を深め，次代のグループ育成のためにも，オブザーバーとしてぜひ多数の参加を希望します。

全国印刷緑友会会員名簿

グループ名	所在地	TEL	代表者名
札幌緑友会	札幌市豊平町4条5丁目10　大同印刷内	(011) 811-4251	本間大陸
秋田昭和会	秋田市大町3-5-30　秋田県印刷工組内	(088) 23-0413	相沢隆一
山形印刷研修会	上ノ山市2丁目田中214　高洋堂印刷内	(02367) 2-0337	高橋孝一
仙台刷親会	仙台市伊在白山印刷団地　三慶印刷内		亀岡勇
茨城緑友会	水戸市備前町5-37　二鶴堂印刷内	(0292) 21-2476	小林十三
群馬緑友会	前橋市大天川大島町305-1　上毎印刷工業内	(0272) 24-6245	小口高秀
神奈川正和会	横浜市南区井土ケ谷中町8　明光印刷内	(045) 714-3133	水谷基也
印刷同友会	東京都中央区日本橋蠣殻町1-30　明文社内	(03) 668-0601	中津川泰三
文京緑友会	東京都文京区本郷2-8-1　寿山堂印刷内	(03) 946-4454	椎橋靖夫
東京活字鳳友会	東京都千代田区三崎町3-4-9　宮崎ビル内	(03) 265-3786	斎藤実
東京写真製版若葉会	東京都千代田区三崎町2-10　製版会館内	(03) 261-1117	茂木益男
千代田印刷新世会	東京都千代田区内神田1-10-6　ツツイ美術印刷内	(03) 294-4881	筒井尚亮
ぎふ翠陽クラブ	岐阜市西野町2-14　船橋印刷内	(0582) 64-0171	林博文
名古屋而立会	名古屋市東区高岳町2-2　愛知県印刷工組内	(052) 23-6252	岩田宗雄
新潟印刷新世会	新潟市出来島244　新潟活版内	(0252) 44-4195	渋谷徹夫
長野青年印刷人緑友会	長野市七瀬中町212　長野県印刷工組内	(0262) 28-3150	飯田範夫
大阪青年印刷人クラブ	大阪市東区淡路町1-7　印刷之世界社内	(06) 202-4951	作道亮雄
大阪二世会	大阪市東成区大今里3-13-20　吉谷商会内	(06) 981-6655	尾崎彰
神戸印刷若人会	神戸市兵庫区上沢通り4-2　神戸商標印刷内　兵庫県印刷工組内	(078) 581-4257	児玉利明
下関青年印刷人緑友会	下関市南部町86　早鞆印刷内	(0832)231-6226	横山博
北九州YPクラブ	北九州市小倉区東港町7-8　南陽堂商店内	(093) 571-0431	渡辺守将
久留米印刷緑友会	久留米市瀬ノ下38　中央印刷内	(09422) 3-0388	川原弘
福岡印刷若葉会	福岡市中央区舞鶴1-2-25　九州印刷文化社	(092) 78-7767	八尋弘文
佐世保印刷若汐会	佐世保市万徳町1-20　港印刷内	(0956) 24-4591	岡敏充
福島彩友会	福島市荒町5-36　山川印刷内	(0245) 23-3304	山川章
青樹会	東京都新宿区岩戸町11　東京平版内	(03) 251-3229	小野瀬洋一
佐賀県印刷若楠会	佐賀市神野西町3-4-16　佐賀県印刷工組内	(09522) 3-2995	山崎巌
愛媛印刷人青年会	松山市大手町2丁目7-5　愛媛県印刷工組内		原晃一
上小印刷若獅子会	長野県上田市中央3-5-18　田辺印刷㈱内		田辺広太郎

事務局　東京都杉並区和田1-29-11　日本印刷技術協会内　〒166　☎ (03) 383-3111

機関紙「緑友だより」第31号　昭和49年4月15日発行　全国印刷緑友会